

令和2年度 大田区立馬込中学校 自己評価 取組内容・取組指標

令和3年2月17日

保護者アンケート回答数187 回答率82%

○ 本校の概要

- [1]未来 3年生英検全員受験・英検I/Aを実施しています。ALTを活用した英語力アップなど英語教育の推進に取り組むとともに、全教員がICTを活用した授業を行っています。生徒会活動を活性化させ、生徒が自ら考え創り上げる活動を大切にしています。学校行事や体験活動を通して、健やかな体と豊かな人間性を育てています。
- [2]学力 学習カルテ・ステップ学習シートを活用し、生徒が自分の学力を自分で分析し、学習法を見つけられるよう支援しています。また、水曜補習教室・定期テスト補習教室・検定試験前学習講座などを実施し、個に応じた学習支援を行っています。今年度と次年度の2年間をかけて、大田区教育委員会教育研究協力校として「ユニバーサルデザイン」の研究に取り組み、すべての生徒がいきいきと活動できる学校づくりに取り組んでいます。
- [3]心 HyperQU(年2回)、SCIによる1年生全員面接(年2回)、本校独自の生活アンケート(年2回)を実施して生徒の状態をきめ細かく把握しています。毎週生活指導部会で情報を交換し、組織的にいじめ防止に取り組んでいます。
- [4]身体 体育的行事や部活動を推進し、全教員が部活動の顧問を担うことで生徒の意欲を高め、進んで体を動かす習慣を身に付けさせるよう取り組んでいます。また「早寝・早起き・朝ごはん」の取組を推進し、健やかな体づくりに努めています。
- [5]学校・教職員 授業公開での保護者アンケートを全教員で回収し、教育の質的向上に努めています。また生徒による授業評価を実施し、授業力向上に取り組んでいます。
- [6]学校・家庭・地域 1年生全員が地域と協働する防災拠点活動訓練に参加し、2年生では地域と連携した5日間の職場体験を実施します。地域行事でのボランティア活動なども推進しています。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

| 大項目 | 目標 | 取組内容 | 取組指標 | 取組評価 | 目標に対する成果指標 | 成果評価 | これまでの取組 今後の改善策 | 学校関係者記入欄 | | |
|---|---|---|-----------------------|------|------------|---|---|----------|---|--|
| 未来社会を創造的に生きる子供の育成 | コミュニケーション能力、情報活用能力、ともに生きる力等、これからの社会の変化にしっかりと対応する子どもの力と自信を身に付けます。 | 外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とコミュニケーション能力の育成を図っている。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 | 4 | 学校評価アンケート | 4: 180%以上 2: 80%以上 | 生徒項目1「授業や学校生活で、友達と話し合ったり、協力しながら、活動することができた」への肯定的回答は88%で、昨年度より10%上昇した。今年度は新型コロナウイルス感染症予防の観点から運動会など大きな学校行事を中止したが、生徒・教職員が一丸となって分散登校や「新しい学校の生活様式」に取り組み、文化祭では素晴らしい発表を行うことができた。制限されている中にも互いを思いやる気持ちが育っていると感じている。今後も他者を思いやる気持ちを大切に、前向きに生活するよう支援していきたい。 | A | 7 | |
| | | | 3: 80%以上が回答した。 | | | 生徒項目2「授業や学校生活で、友達と話し合ったり、協力しながら、活動することができた」への肯定的回答は100%であった。昨年、今年度の2年間、本校では「ユニバーサルデザイン」の研究に取り組んだが、「視覚化」「焦点化」「共有化」など、ICT機器を使う意義を明確にし、「わかりやすい授業づくり」に取り組んだ。今年度の生徒アンケート「情報機器を使って活動することができた」とも、69%に達し、昨年度の62%から7%上昇した。次年度から生徒1人1台のタブレットが配布されることに向けて、12月からは、「学びポケット活用研修」「Gsuite for Education研修」などを校内研修として実施した。次年度は生徒用タブレットの活用の工夫を重点取り組みとする予定である。 | | | | |
| | | | 2: 60%以上が回答した。 | | | | | | | 教師項目2「電子黒板などのICT機器を活用した授業を行った」への肯定的回答は100%であった。昨年、今年度の2年間、本校では「ユニバーサルデザイン」の研究に取り組んだが、「視覚化」「焦点化」「共有化」など、ICT機器を使う意義を明確にし、「わかりやすい授業づくり」に取り組んだ。今年度の生徒アンケート「情報機器を使って活動することができた」とも、69%に達し、昨年度の62%から7%上昇した。次年度から生徒1人1台のタブレットが配布されることに向けて、12月からは、「学びポケット活用研修」「Gsuite for Education研修」などを校内研修として実施した。次年度は生徒用タブレットの活用の工夫を重点取り組みとする予定である。 |
| | | | 1: 60%未満であった。 | | | | | | | |
| 4: 全教員が行った。 | 4 | 4 | B | 1 | | | | | | |
| 3: 80%以上の教員が行った。 | | | | | | | | | | |
| 2: 60%以上の教員が行った。 | | | | | | | | | | |
| 1: 60%未満であった。 | | | | | | | | | | |
| 児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。 | 児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。 | 学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。 | 4: 対象となる全学級(全教員)で行った。 | 4 | 学校評価アンケート | 4: 180%以上 2: 80%以上 | 生徒項目3「前向きに学習に取り組むことができた」への肯定的回答は79%で、昨年度より8%上昇したが8割には届かなかった。下記に述べるとおり、学力の目標値を達成した生徒の数は増えており、生徒が楽しく自己評価していることが伺える。 | A | 6 | |
| | | | 3: 80%以上で行った。 | | | 生徒項目4「先生は、学習で困ったときに適切な指導や助言をしてくれる」への肯定的回答は83%で、昨年度より12%上昇した。新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休業からスタートした今年度であったが、教員が輪番を組んで毎日電話かけを行い、生徒の様子を確認するとともに、配布した家庭学習の相談に乗ったり、学習上のアドバイスをを行った。また、分散登校や「新しい学校の生活様式」などに、生徒と教職員が協力して取り組んでいったことで、信頼関係が高まった側面もある。 | | | | |
| | | | 2: 60%以上で行った。 | | | | | | | 生徒項目5「先生は、学習で困ったときに適切な指導や助言をしてくれる」への肯定的回答は83%で、昨年度より12%上昇した。新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休業からスタートした今年度であったが、教員が輪番を組んで毎日電話かけを行い、生徒の様子を確認するとともに、配布した家庭学習の相談に乗ったり、学習上のアドバイスをを行った。また、分散登校や「新しい学校の生活様式」などに、生徒と教職員が協力して取り組んでいったことで、信頼関係が高まった側面もある。 |
| | | | 1: 60%未満であった。 | | | | | | | |
| 4: 全教員で行った。 | 4 | 3 | C | 0 | | | | | | |
| 3: 80%以上の教員が行った。 | | | | | | | | | | |
| 2: 60%以上の教員が行った。 | | | | | | | | | | |
| 1: 60%未満であった。 | | | | | | | | | | |
| 子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感、自己有用感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育てるなど、未来への希望に満ちた豊かな心を育成する。 | 子ども一人ひとりの正義感や自己肯定感などを高めるとともに、自他の生命を尊重する心を育てるなど、未来への希望に満ちた豊かな心を育成する。 | 道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。 | 4: 対象となる全学級(全教員)で行った。 | 4 | 学校評価アンケート | 4: 180%以上 2: 80%以上 | 生徒項目5「友だちとは、お互いを尊重して仲良く生活できている」への肯定的回答は93%で、昨年度より13%上昇した。臨時休業からスタートした1年であったが、「友達と過ごす時間はかけがえのない宝物」という意識が高まり、ストレスに負けずに仲良く生活することができた。 | A | 8 | |
| | | | 3: 80%以上が回答した。 | | | 生徒項目6「先生は、悩みを聞いてくれたり、相談に応じてくれたり、相談に応じてくれたり」への肯定的回答は85%で、昨年度より13%上昇した。 | | | | |
| | | | 2: 60%以上の教員が行った。 | | | | | | | 生徒項目7「先生は、悩みを聞いてくれたり、相談に応じてくれたり」への肯定的回答は85%で、昨年度より13%上昇した。 |
| | | | 1: 60%未満であった。 | | | | | | | |
| 4: 全教員が行った。 | 4 | B | 0 | | | | | | | |
| 3: 80%以上の教員が行った。 | | | | | | | | | | |
| 2: 60%以上の教員が行った。 | | | | | | | | | | |
| 1: 60%未満であった。 | | | | | | | | | | |
| スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。 | スポーツに親しむ心の育成や、運動習慣の定着による体力の向上など、生涯にわたって健康増進を図る意識の向上をめざします。 | 「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。 | 4: 全教員で行った。 | 4 | 学校評価アンケート | 4: 180%以上 2: 80%以上 | 生徒項目7「進んで身体を動かす、食事で好き嫌いをしない、朝ごはんを食べるなど、比較的健康的な生活を送っている」への肯定的回答は79%で、昨年度より6%上昇した。臨時休業中m生徒の生活を支えたご家庭の教育力に感謝している。 | A | 6 | |
| | | | 3: 80%以上の教員で行った。 | | | 生徒項目8「生徒会活動、委員会活動、部活動などに、積極的に取り組んでいる」への肯定的回答は70%で、昨年度より5%上昇した。制限されていたり、自粛している活動も多いが、「やれることを一生懸命やる」ことを目標に、毎日の生活に前向きに取り組むことを目指した。 | | | | |
| | | | 2: 60%以上の教員で行った。 | | | | | | | 生徒項目9「授業は、映像や図で見せるなど、工夫があり、わかりやすい」への肯定的回答は80%で、昨年度より6%上昇した。 |
| | | | 1: 60%未満であった。 | | | | | | | |
| 4: 全教員で行った。 | 4 | B | 2 | | | | | | | |
| 3: 80%以上の教員で行った。 | | | | | | | | | | |
| 2: 60%以上の教員で行った。 | | | | | | | | | | |
| 1: 60%未満であった。 | | | | | | | | | | |
| 児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくり出す。 | 児童・生徒が安全・安心に学校生活を送るために、教員の指導力向上と良質な教育環境をつくり出す。 | 授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。 | 4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 | 4 | 学校評価アンケート | 4: 180%以上 2: 80%以上 | 生徒項目9「授業は、映像や図で見せるなど、工夫があり、わかりやすい」への肯定的回答は80%で、昨年度より6%上昇した。 | A | 7 | |
| | | | 3: 80%以上の教員が回答した。 | | | 生徒項目10「授業は、話し合い活動や発表などがあり、友達や先生の意見を聞いたり、考えを伝えたりできる」への肯定的回答は84%で、昨年度より8%上昇した。 | | | | |
| | | | 2: 60%以上の教員が回答した。 | | | | | | | 令和元年度から大田区教育研究協力校として「ユニバーサルデザイン」の研究を行い、全教員が「視覚化」「焦点化」「共有化」を意識して授業改善に取り組んだ成果があらわれた。 |
| | | | 1: 60%未満であった。 | | | | | | | |
| 4: 全教員が行った。 | 4 | B | 1 | | | | | | | |
| 3: 80%以上の教員が行った。 | | | | | | | | | | |
| 2: 60%以上の教員が行った。 | | | | | | | | | | |
| 1: 60%未満であった。 | | | | | | | | | | |
| 学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指す。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。 | 学校・家庭・地域が担う役割などを明確にし、地域に開かれた教育の実現を目指す。また、相互の連携を深め、子どもを育てる仕組みを作ります。 | 教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。 | 4: 1回以上更新した。 | 4 | 学校評価アンケート | 4: 180%以上 2: 80%以上 | 保護者項目11「学校は、学校の様子を保護者に伝える(HP・学年だより・学校だよりなど)」への肯定的回答は86%で、昨年度より1%上昇した。今年度は、通常と異なるスタートであったため、生徒や保護者の方も不安に感じることが多く考え、HPや保護者メール、電話等を使った、きめ細かな情報発信に努めた。保護者が来校できなかった期間も、毎週学年だよりを発行し、写真のついた記事掲載する学校HPブログ「馬中ダイアリー」を週1回程度の頻度で更新して、学校での生徒の様子を家庭に伝えた。 | A | 7 | |
| | | | 3: 80%以上の教員が更新した。 | | | 保護者項目12「学校は、地域と連携した行事やボランティア活動などを積極的に実施している(地域清掃・防災訓練・地域行事への参加など)」への肯定的回答は87%で、昨年と同じだった。感染症予防の観点から「地域清掃」を校内バージョンに切り替えるなどの工夫を行い、多くの生徒が積極的にボランティア活動に参加することができた。 | | | | |
| | | | 2: 60%以上の教員が更新した。 | | | | | | | 馬込中学校の特色でもある5日間の職場体験や、町会との合同防災訓練は感染症拡大防止の観点から中止せざるを得なかったが、校内での地域学習を行った。今後も生徒が地域の一人としての自覚を持って取り組んでいきたい。 |
| | | | 1: 60%未満であった。 | | | | | | | |
| 4: 全教員が行った。 | 4 | B | 1 | | | | | | | |
| 3: 80%以上の教員が行った。 | | | | | | | | | | |
| 2: 60%以上の教員が行った。 | | | | | | | | | | |
| 1: 60%未満であった。 | | | | | | | | | | |

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。

○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめる。

○学校関係者評価の「評価」は、A: 自己評価は適切である B: 自己評価はおおむね適切である C: 自己評価は適切ではない D: 評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。